○高等植物分布資料 (10) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (10)

○キリガミネトウヒレン *Saussurea kirigaminensis* Kitamura　名のとおり信州霧ケ峯から八ガ岳山彙にかけて割にひろく知られている本種が木曽谷を遙かに下つた岐阜県美濃恵那山に近い中津川市根の上高原 (700 m) に産することを 1953 年 8 月発見した。イヌツゲやミヤマウメモドキの産する湿原にヤマドリゼンマイ・サワシロギク・ハンゴンソウなどと混生して個体は多くないが生育はよい。杉本順一氏のお話では天竜下流の浜松近郊の湿原にもある由であるから前記信州から現生的に流下したものというよりはやはり各地それぞれに遺存したものといえよう。(井波一雄)

○アシュウテンナンショウ *Arisaema ovale* Nakai　原品地丹波から裏日本を越中能登と知られている本種を太平洋側流域である岐阜県山間に二カ所の産を知つた。即ち一は長良川の支流武儀川水源である山県郡舟伏山山頂近く (1000 m), 一は揖斐川の上流水源である揖斐郡春日村に属する伊吹山裏山腹 (1000 m) である。両地とも表斜面ではあるが気候特に冬期降雪量はあきらかに裏日本的であり，その移行地帯として興味深く，タイミンガサ・ケイタドリ・ヒメモチ・エゾユズリハ (表型に近くなる) ボタンネコノメ・スミレサイシンなどを近傍にみる反面カワノリのようなあきらかな表日本種を産する。(井波一雄)

○クロベ *Thuja standishii* Carriere　別して著しい種でもないがその自生南限地として報じたい。三河 (愛知県) の東北県境の茶臼山 (1400 m) の東面の谷 (1000 m) に温帯樹種と混じて点在することを 1958 年 8 月の調査で知つた。木曽・飛騨・伊那の山地にはよくしられていて木曽は恵那山まで伊那は遠山川流域まで記録をみるので本地のものはその南限界かと思われる。なお同山にはセリバシオガマ・コイチヨウラン・コフタバラン・ミヤマヌカボシソウ・ヤナギラン (var. *pubescens* の型) やギボウシランを産する。(井波一雄)

○マルバチャルメルソウ(補正) An additional note on the occurrence of *Mitella nuda*.　3 月号にマルバチャルメルソウが信州上伊那郡の白岩嶽 (南アルプス中の西側の支脈) に産することを報じた。ところが山草同好会誌「みねはな」の第 3 号 (1955 年 3 月発行) に「片隅の山」と題する記事があり，筆者島田真太郎氏 (信州諏訪郡境村信濃境の人) が諏訪側から笹ケ平山 (2129.9 m), 釜無山 (2116.5 m), ホドクボ山 (1970 m) に登り，石灰岩壁下の崩壊地にマルバチャルメルソウを採つたと書いてある。これらの山は白岩嶽の北の連嶺であり，共に小泉秀雄氏が釜無山脈と称せられたものを成す。文面から推して間違いないらしいので，此の稀種が既に山草家の一部には本州産を知られていたことが分る。然し白岩嶽が南限である点に未だ変改はなく，今後に於ける南の連峰の調査に期することである。懇切な私信と共に雑誌「みねはな」を貸与された東大の山崎敬博士に御礼申し上げます。(水島　正美)